

## 2017年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

Alice Parent (モントリオール市、カナダ)

『ヒロシマ』とは何を意味していますか？」

私たちは先生たちから繰り返しこの質問をされました。「『ヒロシマ』とは何を意味していますか？」

10日間共に過ごした後、私たち「HIROSHIMA and PEACE」の参加者は手を取り合い輪になって団結しました。私たちは一人ずつ、そこでの経験を一言でまとめるように言われました。「記憶」、「平和」、「友情」、「歴史」、「争い」、「許し」、「核兵器」、「被爆者」、「アイデンティティ」、「惨劇」、「復興」、「死」、「希望」、「都市」、「お好み焼き」。これらの言葉一つ一つに重い意味があります。（「お好み焼き」は違うかもしれませんが、これがなければ広島とは言えません。）それぞれの言葉それ自体が質問への答えであり、『ヒロシマ』の持つ数多の意味の一つなのです。

日本以外の国に住む人々のほとんどは、「ヒロシマ」という言葉を聞けば、即座に1945年8月6日にその都市に落とされた原子爆弾を思い出します。祖母に私が広島に行くと言うと、彼女は「ああ、広島のこと覚えているわ」と言いました。原爆投下について思い出しながら、彼女は焼け野原となった広島、絶望の中逃げ惑う住民たち、そして彼らが想像を絶する熱で死んでいく様子を思い描いていました。世界中の多くの人々にとって、「ヒロシマ」とは未だに焼けた石であり、垂れ下がった皮膚であり、焦げた子供服の切れ端であり、抜け落ちる髪であり、溶けたガラスなのです。こうした人々にとっては、「ヒロシマ」の意味するところは一つしかありません。惨劇の「ヒロシマ」なのです。

「HIROSHIMA and PEACE」の講義で、私はこの「ヒロシマ」について学びました。

しかし他の人々にとっては、「広島」という言葉には全く違った意味があります。「広島」とは賑やかな本通りであり、緑豊かな平和記念公園であり、路面電車であり、日本一のお好み焼きであり、楽しげで親切な広島市民なのです。多くの人にとって、「広島」は故郷なのです。

ホストファミリーと一緒に暮らし、広島の学生たちと親しくすることで、私はもう一つの「広島」について学びました。

この特異な都市の中で「ヒロシマ」と「広島」は共存しています。どちらが欠けても存在できません。両者の過去・現在・未来は絡まり合っているのです。この都市の現在の姿は、原爆投下後、「ヒロシマ」の完全な復興により作られたものです。そして同様に、「広島」は今もあの惨劇の傷跡を抱える街であり、例えば、原爆ドームの近くを通るたびにそれを目にすることになります。しかし実際にあるのはたった一つの『ヒロシマ』、国際平和文化都市広島です。

広島平和記念資料館へ行き、平和記念式典に参列することで、私は核兵器のない未来のために奮闘する都市について、そして『ヒロシマ』について学びました。

被爆者の証言を聞くことで、私は記憶や忘れないでいることの大切さ、そうした記憶を伝えていくことの大切さ、そして『ヒロシマ』について学びました。

特に印象に残った講義が一つあります。小倉桂子さんによる被爆体験証言です。彼女は講義でとても説得力のある話をしてくださいました。「私は自分の体験をあなたたちに伝えました。これからはあなたたちの体験でもあります。私の話を聞いたことで、あなたたちも目撃者となったのです。次はあなたたちが他の人たちに伝える番です」私はそうするつもりでいます。帰って来てから、核のない世界の推進を最終目標として、プロジェクトのアイデアを考え続けています。現在、頭の中で計画している最も大きなプロジェクトは、「被爆樹木をモンリオールに」プロジェクトです。広島には被爆樹木（広島原爆投下を生き延びた木々）の種を提供している複数の NGO があります。そうした種を注文し、モンリオール市長の許可を得て、モンリオールの公園や植物園にその種を植えたいのです。これらの木々は「ヒロシマ」と「広島」両方の象徴となるでしょう。惨劇の末裔であると同時に、都市の復興の生きた証でもあるのですから。これらの木々は広島の記憶の語り部であり、広島の遺産の一部です。これらには公園や植物園を訪れた人たちに広島原爆について伝える力があります。私が考えている他のプロジェクトとしては、私が広島で学んだことや平和首長会議について私の大学で発表会を開くというものがあります。その際には、広島で撮ったたくさんさんの写真を紹介したいと考えています。

また、これは言っておきたいのですが、「HIROSHIMA and PEACE」は核兵器についてだけに焦点を当てたものではありません。被爆者や彼らの証言についてだけでもありませんし、広島の遺産についてだけでもありません。私に言わせれば、「HIROSHIMA and PEACE」は何よりもまずその参加者について考えるものです。自身を理解し、自分の国を理解することです。また、他者を理解し、彼らの国を理解することです。世界の異なる場所に住む人々の間に架け橋をかけ、一つの共通の目標に向かって団結させることです。そしてその目標とは、過去の過ちを理解し、記憶を引き継ぎ、核のない世界、平和な未来を推進することなのです。

最後にもう一度、私を「HIROSHIMA and PEACE」に参加させてくれた平和首長会議と広島市立大学に感謝を申し上げます。極めて素晴らしい、勉強になる、貴重な、またとない経験でした。

平和を考える場所、広島。

平和を誓う場所、広島。

未来を考えるスタートの場所、広島。

平和記念式典より引用

アリス・ペアレント